エンパワーするNGO
YWCA

2016

年次報告書

Annual Report

公益財団法人日本YWCA

目次

若い女性のリーダーシップ養成 2
ひろしまを考える旅 2016
日韓ユース・カンファレンス 2016
中高 YWCA 地区カンファレンス
国連女性の地位委員会（CSW）派遣
ボランティアのリーダーシップ養成 5
災害時緊急支援 5
被災者支援活動 6
YWCA 活動スペース「カーロふくしま」
保養プログラム
セカンドハウスプログラム
ふくしまから考える新しいエネルギー
熊本地震被災者支援活動
国際連帯／アドボカシー 10
寄付報告 10

YWCA（Young Women's Christian Association）は、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGO です。1855 年に英国で始まり、現在世界 120 あまりの国で、約 2,500 万人の女性たちが活動しています。

日本 YWCA は、24 の地域 YWCA、36 校の中高 YWCA とともに、女性や子ども、高齢者など、弱い立場におかれている人たちをエンパワーすると共に、ビジョンに掲げた社会を実現する人材を養成しています。

日本 YWCA の使命（ミッション）

イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する。世界の人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む。

日本 YWCA のビジョン

地域で女性達が主体的に活動することを通して、以下の社会をめざします。

1. 平和憲法が生かされ、核も暴力もない社会
2. 女性と子どもの尊厳を守る社会
3. 若い女性がリーダーシップを発揮する社会
4. 多世代・多文化で多様な背景を持つ人びとを尊重する社会

ひろしまを考える旅 2016　2016 年 8 月 9 日（火）～12 日（金）　@広島

「ひろしまから福島へ、そして世界へ」

「ひろしまを考える旅」は、核兵器による惨事を二度と繰り返さないために、若い世代と平和の大切さを学び、共に平和な世界を実現したいと願い、広島の地で実施する 2 泊 3 日（オプショナルツアー参加の場合は 3 泊 4 日）のプログラムです。全国の中高生・大学生を中心に、留学生、韓国と中国からの参加者等、多文化・多世代が参加。被爆証言を聴き、平和記念資料館見学やフィールドワーク、グループ討議など、参加者は五感を研ぎ澄ませてひろしまの経験を追体験し、平和について考えます。

2016 年度は「ひろしまから福島へ、そして世界へ」をテーマとし、約 70 名が参加。東京電力福島第一原子力発電所事故後の福島の状況からひろしまを考えることで、「昔のこと」「他人事」ではなく、現在の日本社会に生きる「自分事」として考えました。また、「東アジアの平和について考える」セッションを持ち、参加者は、東アジアの平和構築に一人ひとりに責任があることを学び、自らができることを考えました。多くのユース参加者が、多文化多世代の参加者と共に学び、少人数でのディスカッションを繰り返すことで、多様な価値観に触れ、自らの思考・行動の「枠」に気づき、視野を広げました。

参加者の声

「原爆で被害にあった広島、原発で被害にあった福島、どちらもつらく悲しいことです。私たちはこの事実を知り、受けとめ、そこからどうしたらよいのかと考え、学んでいくことが大事だと思いました。私にできることはやはり伝えていくことだと思うので、自分が今回感じ、学び、考えたことをどんな形であれ、伝えていけたらいいなと思います。」（S.M　中学 3 年）

「違う世代の人々、違う国の人々と話し合ったり、意見を聞くことができ、また、それぞれができる小さな、でも確実なアクションを目に耳にしました。帰っても、それぞれが行うアクションがほかの人にも拡散され、またその人が広げれば、小さくても大きな一歩となるだろうと思います。半年後、大学を卒業した自分が今後知って、実行していくことがとても大切だと思いました。」
（O.A　大学 4 年）

若い女性のリーダーシップ養成

日韓ユース・カンファレンス 2016　2016 年 8 月 9 日（火）～12 日（金）　@韓国・釜山

「核のない世界へのエネルギー転換」

日韓ユース・カンファレンスは、日本と韓国の 30 歳以下のユースが寝食を共にしながら、日本・韓国に共通するさまざまな問題について共に学び、考える草の根の対話・交流プログラムです。

2016 年の日韓ユース・カンファレンスは、「核のない世界へのエネルギー転換」をテーマに開催。4 日間の同プログラムには、日本から 14 名、韓国から 20 名が参加。韓国最古の原子力発電所・古里（ゴリ）原子力発電所周辺地域でのフィールドワークや、エネルギーの大量生産・大量消費とは異なる生き方を模索する「ミンドレ・コミュニティ」の訪問などを通じ、両国に共通する大きな問題である原子力発電について、また、より安全で持続可能な世界のためにそれぞれができることについて話し合いました。

中高 YWCA 地区カンファレンス

日本 YWCA には全国 36 の中学校・高等学校が加盟しています。これらの学校はそれぞれの地区で、毎夏、中高 YWCA 地区カンファレンスを開催しています。

- **東北・北海道地区：「環境」** 2016 年 7 月 28 日(木)－30 日(土)　49 名参加

  基調講演では、片岡輝美さん（会津放射能情報センター代表）からお話を伺いました。また、宮城県と山形県の間にある蔵王を 4 時間かけて歩き、東北の自然を五感を使って学びました。

- **関東地区：「生きるとは　～ハンセン病療養所の歴史に学ぶ」** 2016 年 8 月 3 日(水)－5 日(金) 47 名参加

  静岡県・御殿場にて、カトリック御殿場教会や、ハンセン病患者が治療を受けていた神山復生病院を訪問。参加した生徒の発表時間も設けられました。

- **関西地区：「賀川豊彦から学ぶ〇〇」** 2016 年 8 月 8 日(月)－10 日(水)　85 名参加

  映画「死線を越えて」や賀川豊彦記念館への訪問を通じて、キリスト教社会運動家であった賀川豊彦を学び尽くす 3 日間。最終日のグループワークでは、テーマの「賀川豊彦から学ぶ〇〇」に入る言葉を考え、参加中高生からは「隣人愛」や「生き様」などが挙がりました。

国連女性の地位委員会（CSW）派遣　2017 年 3 月 9 日（木）～17 日（金）　@米国・ニューヨーク

毎年 3 月にニューヨークの国連本部で開催される国連女性の地位委員会（CSW）では、例年数千人の NGO 参加者が、現場の女性たちの声を国連に届けています。世界 YWCA は 1946 年の CSW 発足以来毎年参加。若い女性の状況と人権に焦点を当、若い女性たちがリーダーになることを強く求め、CSW の中で若い女性のための場を構築し確保することを大きな目的にして参加しています。2016 年度も 120 人以上の YWCA メンバーが参加しました。

2017 年 3 月、日本 YWCA は 4 人のユースを含む 5 人のメンバーを、YWCA 代表団の一員として派遣しました。参加者は、国連本会議の傍聴のほか、世界 YWCA のトレーニングや NGO 主催のイベント、日本やオーストラリア政府と NGO の会合、世界 YWCA が立案者でもある「CSW ユース・フォーラム」などに参加し、世界各国の YWCA の仲間や女性たちの活動に出会いました。また、CSW 本会議に平行して開催される NGO の「パラレルイベント」として、『若い女性の平和へのリーダーシップ：「ひろしまを考える旅」から学ぶ』という 90 分間のイベントを、独自にニューヨーク市内の会場で実施しました。

参加者の声

- 世界 YWCA の人たちとのやりとりを通じて、リーダーシップとはトップダウンで命令するようなものではなく、一人ひとりが「自分に寄り添ってくれている」と感じるように接することだと感じた。
- これまで韓国 YWCA や中国 YWCA との交流プログラムに参加したが、世界各国からの参加者が集う場に参加して、今まで以上に韓国・中国の人たちを身近に感じ、自分が東アジア地域の一員だと感じた。
- ユース・フォーラムでは、世界の若者の力強さを感じた。今後の活動の中で取り入れたいものがたくさんあった。
- パラレルイベントでは、参加した人たちと国を超えて戦争・平和について語り合うことができた。英語でのプレゼンテーションは初めてだったが、参加者が一生懸命聴いてくれ、非常に暖かい空気の中で発表することができ少し自信がついた。
- 思うように英語がわからないなど、苦しい部分もあったが、自身のあり方を捉え直す機会になった。
- CSW で得たものを、大阪 YWCA でワークショップ等の形で還元する予定。日本のユースと世界のユースをつなぐきっかけづくりをしたい。

ボランティアのリーダーシップ養成

2016 年度は、以下のようなボランティアのリーダーシップ養成活動を行いました。

- 4 月～2017 年 2 月 「YWCA ファンを増やそう 動画プロジェクト」（全国の YWCA）
- 5 月 全国のボランティアを対象とした活動企画に関するトレーニング（会場：国立オリンピック記念青少年総合センター）
- 11 月 絵本作家：塚本やすし トークライブ ～絵本をとおして伝える、平和～
  「憲法出前授業」（神戸 YWCA 平和活動部）（会場：東京 YWCA）

動画プロジェクトより

日韓 YWCA カンファレンス　2016 年 8 月 21 日（日）～25 日（木） @韓国・慶州

「女性がつくる東アジアの平和」

2 年に 1 度、日本 YWCA・韓国 YWCA で共催する同プログラムには、日本から 15 人、韓国から 24 人が参加しました。参加者は、韓国在住の被爆 2 世からのお話を伺い、月城原発周辺で住民の方に出会い、互いに自国の状況と活動を報告し、ディスカッションののち「日韓女性が創る東アジア平和のための共同声明」を採択しました。

災害時緊急支援

日本 YWCA は、海外の YWCA と連携し、自然災害等の際には募金を呼びかけて現地の YWCA が行おうとしている活動をサポートする形で、緊急支援活動を行っています。

- 2016 年 2 月 台湾南部地震
  台湾 YWCA によるソーシャルワーカーの派遣、被災者への申請文書作成サポートなどの活動を支援
- 2016 年 10 月 ハイチにおけるハリケーン被害
  ハイチ YWCA による、被災した女性・少女たちのための社会的／精神的エンパワメントやリーダーシップ・トレーニングを含む中長期支援活動を支援

被災者支援活動

日本 YWCA は、2011 年のあの日生まれた子どもたちが 20 歳を迎えるまで支援を続ける決意のもと、「com7300 委員会」を立ち上げ、東日本大震災被災者支援に取り組んでいます。「com」はラテン語で「ともに」、「7300」は 20 年間の日数です。 東京電力福島第一原子力発電所事故から 6 年が経ち、再稼働が相次いでいますが、原発事故の終息は程遠く、放射能被災による課題はいまだそれぞれの生活の上に取り残されています。日本 YWCA は、保養プログラム、セカンドハウスプログラム、活動スペース「カーロふくしま」を拠点とした事業、の 3 本柱で支援活動を行っています。

YWCA 活動スペース「カーロふくしま」

「カーロ」はイタリア語で「親愛なる」「大切な」を意味します。「カーロふくしま」は福島の女性と子どもたちにとってリフレッシュとふれ合いの大切な場所となるよう、2012 年 11 月に開設しました。自由に立ち寄り、日頃話すことのできない心配事について安心して話し合ったり、情報を得たり、共有したりすることができる「セーフスペース」（安全な場）として、 被災された女性と子どもたちの心身を守り、課題解決の力となることを目指して運営しています。

生活に癒しと楽しさをプラスするイベントや講座、独立を目指す女性への支援、県内外の保養団体との交流、全国の YWCA が開催する保養プログラムの案内や、セカンドハウスプログラムの窓口としての利用説明会、高校生を主体とした再生可能エネルギーを学ぶ取り組みなどをおこなっています。また、2016 年 4 月に発災した熊本地震の際には、福島 YWCA との連携のもと、日頃の利用者など有志から寄せられた支援物資を被災地に発送するベースともなりました。

「カーロふくしま」は、福島と繋がり心を寄せる全国のみなさんの応援によって支えられています。

2016 年度参加者
のべ 871 名

5 月 18 日　世界一”豊かな”大統領に学ぶ幸せのヒント
5 月 27 日　カラーセラピー＆カラーコーディネイト講座
6 月 29 日　スイーツデコのカードケースワークショップ
7 月 23 日　熊本地震応援ありがとう報告会
11 月 24 日　がんばらないためのかいごカフェ～元気に笑う介護のすすめ～
12 月 1 日　クリスマスにチャレンジ！手作りソーセージでポトフ
2 月 10 日　フラワーゼリーを作りましょう
※その他、福島 YWCA 主催の「福島 Y’s カフェ」や講座、安全安心な食べ物販売とワークショップの「福ふくマーケット」、東京 YWCA 千葉ルームや熊本学園大学からの訪問交流会など

利用者の声

- カーロで毎月 1 回の講座を始めてもうすぐ 2 年半になります。最初は不安でしたが、この講座が定着し生徒さんが楽しく足を運んでくれることによって、自信がつき、独立に向けて頑張れるようになりました。
- 仕事の合間をみて講座に参加しました。連続ではなく 1 日開催なので、気軽に参加できて嬉しいです。新しい分野にチャレンジして、友達もできて気分転換になりました。
- 手芸サークルで急遽利用しました。駐車場も広く、カーペット敷きなので子どもたちを遊ばせていても安心です。

被災者支援活動

2016 年度利用者
166 名

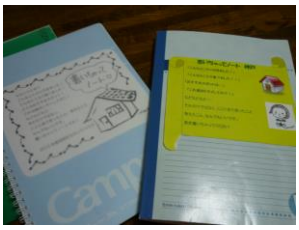
保養プログラム　@函館・福島・東京・静岡・京都・名古屋・大阪・福岡・熊本

保養プログラムは、放射能の影響の大きい被災地で不安を抱えて暮らす親子が、心身ともにリフレッシュするためのプログラムです。全国各地の地域YWCAが、それぞれの地域の特色を生かしたプログラムを夏や春の子どもたちの長期休暇に合わせて行います。自然との触れ合い、海や川での水遊び、ボランティアの学生や地域の子どもたちとの交流など、2016 年度は 9 カ所で保養プログラムを実施し、166 名が参加。皆さまのご寄付から各地の保養プログラム実施のための費用を補助し、保養先の移動交通費等に用いさせていただきました。

セカンドハウスプログラム

2016 年度利用者
23 家族 84 名

横浜・名古屋・神戸にある 3 軒のセカンドハウスは、被災者の方々が家族あるいはグループ単位で、また単身の女性が滞在し、自由な時間を過ごせる住居です。子どもがまだ小さい、あるいはきょうだいの年齢差などがあり保養プログラムに参加できない場合、または家族そろってリフレッシュしたい場合など、セカンドハウスを自宅のように利用することができます。これらの住居は、活動に賛同してくださった大家さんから無償で提供していただき、地域の YWCA が管理を担っています。皆さまからのご寄付で、利用者の交通費の一部を補助しています。



利用者の声

- 仕事の都合上、なかなか休むこともができないため遠くへの長期保養の参加は難しかったので、このような家族の都合で日程を組むことができる保養はとても助かります。5 年間、放射能問題に情報アンテナを張り巡らせて疲れ切っていましたが、家族みんな、元気を補充させていただきました。また明日からもがんばることができそうです。（郡山市在住　W さん）
- 「我が家は庭の線量がなかなか下がらず、幼い子どもたちは裸足で走り回ったりしていますが、私たちは内心心配でなりません。そんな風にして、フクシマの親たちは、日々、見えないモノと闘い、そしてストレスを感じています。木や葉や実を拾い、イキイキと過ごした子どもたち、なかなか都会的な生活は出来ないので、電車に乗るのもいい体験となっています。大家さんは優しく温かい方でいつお会いしても気遣ってくださり、お話しするのが幸せです。こちらも穏やかな気持ちになります。」（福島市在住　H さん）

ふくしまから考える新しいエネルギー　　2016 年 7 月 24 日（日）～11 月 19 日（土）　全 8 回

2015 年度に引き続き、福島県在住の高校生を対象に「ふくしまから考える新しいエネルギー Part2」を、全 8 回のシリーズで実施しました。このプログラムは、高校生が自然エネルギーの仕組みや使い方を学び、日々の生活に活かし、社会に広めていくことを目的としています。特に今年度は、福島県内の再生エネルギーの取り組みに焦点をあて、未来の福島のエネルギーについて考えました。行政から個人までさまざまなレベルで、地熱や太陽光、バイオマスなど多様な手法で再生可能エネルギーをつくり使用している場を訪問し、実際に体験する取り組みを通して、東京電力福島第一原子力発電所事故後の福島で選択する、新しいエネルギーのあり方を考えました。

最終回の発表会では、これまでの取り組みを通して学び感じたことを、高校生たちが自分の言葉で語りました。最後に、今後さまざまな年代の人たちが一緒に楽しく再生エネルギーについて考えていくために、エネルギーフェスティバルの企画を提案しました。

参加者の声

- 自分の将来の職業、のちのことを考えることができてよかった。以前は海外に、ただ単に行ってみたいだけだったけれど、今は再生可能エネルギーを学びに海外に行きたいな、と思うようになった。
- 福島のことを知っているつもりでいたけれど、知っていたのは一部だけで、福島に住んでいたのに知らなかったことをたくさん知ることができてよかった。

第 1 回　7 月 24 日（日）「キックオフミーティング」@カーロふくしま　福島県の再生エネルギー政策について、他
第 2 回　7 月 31 日（日）「県内の取り組み現場訪問」
訪問先：元気アップつちゆ・雄国発電所、他（車両で移動）
第 3 回　8 月 18 日（木）～20 日（土）「県外プログラム」
ドイツの取組を学ぶ、ソーラークッカー体験、他（東京 2 泊）
第 4 回　9 月 22 日（木/休）「ふくしまから考える新しいエネルギー」についての講演会を高校生自ら企画運営@ラコパふくしま
第 5 回　10 月 2 日（日）　福島での取り組みとまとめ①
原発事故発災から今日まで　私たちの生活との関わり
お話：野中俊吉さん（生活協同組合コープふくしま専務理事）
第 6 回　10 月 16 日（日）福島での取り組みとまとめ②
福島でのバイオマス発電の取り組みについて
お話：箱﨑亮三（NPO 法人実践まちづくり理事長）
第 7 回　11 月 13 日（日）福島での取り組みとまとめ③
これまでの活動を振り返り、今後なにができるか考える。
第 8 回　11 月 19 日（土）発表会@東京YWCA
「これまでの学びや、自分たちの意見を多くの人たちに届けよう!」（東京 1 泊）

被災者支援活動

熊本地震被災者支援活動

地震直後の熊本 YWCA 会館内部

4 月 14 日夜・16 日未明に、震度 7 を観測した熊本地震が発生し、熊本市では 4 万人近くが避難しました。日本 YWCA は地震翌日の 17 日より、被災者の方々の支援活動を開始しました。

全国の YWCA による緊急物資支援

まず、全国 24 地域にある YWCA を通じ、福岡 YWCA を拠点として緊急支援物資を呼びかけました。4 月 18 日、YWCA メンバーの勤務先の、熊本学園大学被災者支援センターを受け入れ先として、新鮮な野菜や歯ブラシ、トイレットペーパーなど第一便を搬送。緊急支援物資運搬を 5 月 5 日まで継続しました。

熊本学園大学被災者支援センターでの活動

熊本市では、高齢者や障がい者等「災害弱者」約 1,700 人を受け入れられるとしていた福祉避難所（176 施設）の利用者は 4 月 24 日時点で 104 人にとどまり、多くの方が情報・水・支援物資を得られず孤立していました。そうした中、日本 YWCA が物資をお届けした熊本学園大学の避難所では、高齢者や障がいのある方たちの受け入れを実施。他の避難所から移ってこられる方も多く、多い時で 750 人、4 月 19 日時点で約 400 人が避難。「圧倒的に食料が足りない中、3 食のおにぎりとお味噌汁が提供されるようになったのは今日からです。今日から支援物資が届き始め、水・毛布・カンパンは一人一つ支給できるようになりました。全体的な雰囲気はよく、障がい者・高齢者のいるホールでは、障がい者も高齢者も一緒にご飯を食べ、持ち寄ったお菓子や差し入れなどを分け合い過ごしています。」（4 月 18 日現地より）

熊本 YWCA の取り組み

熊本 YWCA では、被災留学生を支援するために 5 月 7 日（土）に留学生対象のリサイクルバザーを開催。顔を合わせて、お互いに安心を得る機会にもなればと願って開催したこのバザーには、約 60 名が来場しました。

また、熊本 YWCA メンバーは、熊本学園大学に避難中の、主に障がいを持った方たちのための洗濯ボランティアを実施。避難所に出向き、預かった物を家で洗濯して、乾かし、お届けしました。

国内外からの支援、今後の被災者支援活動

4 月 14 日以降、世界各地の YWCA から熊本の状況への問い合わせ、お見舞いのメッセージが届き、韓国 YWCA からは緊急支援物資として韓国のり 6800 パックが届きました。いただいたのりは、熊本学園大学の避難所はじめ熊本市内の避難所で配布。ご飯があってもおかずが不足する状況にあって、皆さんから喜ばれました。

「熊本地震・被災者支援募金」には国内外の多くの方々よりご寄付をいただき、合計 5,361,657 円となりました。改めてお礼申し上げます。ご寄付を用いて、熊本 YWCA は以下の 5 つの柱をもとに復興に向けて取り組んでいます。（2016 年度～2019 年度）

1. 子どもたちの心のケアのためのデイプログラムと春のわくわくキャンプ（福島と熊本の子どもたち対象）
2. 安心して活動できる拠点としての建物の補強
3. 被災した留学生や会員の支援
4. 長期的な活動の担い手の育成や研修（特に若い人材養成のため）
5. 熊本で被災した関係団体への支援

パレスチナ YWCA 支援／オリーブの木キャンペーン

パレスチナでは、1967 年にイスラエルによる軍事占領が始まって以来、女性や少女たちをはじめ、人々の生活が脅かされ続けています。日本 YWCA は、パレスチナ YWCA が実施している、紛争解決に向けたリーダーシップ・トレーニングや女性の自立のための職業訓練、保育所運営などを支援しています。

また、日本 YWCA は、JAI（Joint Advocacy Initiative：パレスチナ YWCA・東エルサレム YMCA の共同プロジェクト）によるオリーブの木キャンペーンを支援しています。現在、パレスチナ自治区では、分離壁の設置や入植地の拡大により、オリーブ畑が強制的に接収・破壊されています。JAI は、パレスチナの人々の生活に深く根ざしたオリーブの木の植樹という非暴力的かつ世界中の人が寄付により参加できる方法で、現地の雇用創出、環境保全、生活の安定化をはかる取り組みを行っています。

3000 円のご寄付で 1 本のオリーブの苗木を植えることができます。2016 年度は、日本 YWCA から 250 本の苗木を植えるための募金を送りました。

声明・賛同・後援

- 沖縄県うるま市における元海兵隊員による女性暴行殺害事件に関する抗議声明（5 月 22 日）
- 第 9 回日韓 YWCA カンファレンス「日韓女性が創る東アジア平和のための共同声明」（8 月 23 日）
- 「核兵器禁止条約」制定交渉開始決議に反対した日本政府に対しての抗議声明（11 月 2 日）
- 高江ヘリパッド建設中止を求める緊急声明（8 月 9 日）
- 「もんじゅ再処理の中止と原発再稼働の中止を求めます」（意見広告市民の会 10 月 1 日）
- 劇映画『母　小林多喜二の母の物語』後援
- 「日印原子力協力協定」に反対する共同アピール（ノーニュークスアジアフォーラム・ジャパン 10 月 26 日）

2016 年度も多くの皆さまからご支援をいただきました！

寄付報告

日本 YWCA 賛助費	1,284,000 円
ピースメーカーズ募金	1,015,321 円
東日本大震災被災者支援募金	6,317,733 円
災害時支援募金 （熊本地震／台湾南部地震被災者支援募金含む）	6,525,883 円
オリーブの木キャンペーン募金	729,000 円
パレスチナ YWCA 支援募金	320,000 円
その他	23,650 円
合計	16,215,587 円

2016 年度も、多くの皆さまからのご支援・ご協力を誠にありがとうございました。日本 YWCA は、2017 度も引き続き、平和で誰もが尊重される社会にむけた女性たちの主体的な活動を支援していきます。引き続きのご支援・ご協力を何卒よろしくお願いいたします。

代表理事　石井摩耶子
会長　藤谷佐斗子

日本 YWCA の活動をご支援ください。

ピースメーカーズ募金　平和を創りだす女性のリーダーシップ養成活動に用います。

東日本大震災被災者支援募金　被災地の女性と子どもたちを支援する活動に用います。

賛助費　日本 YWCA の活動全般をご支援ください。

一口年額　3,000 円／5,000 円／10,000 円

災害時支援募金　緊急支援活動に用います。

オリーブの木キャンペーン募金

一口 3,000 円で、オリーブの木 1 本をパレスチナに植えます。寄付者には証明書が発行され、植樹された場所に寄付者の名前入りプレートを置きますので、必ずお名前のローマ字表記をお知らせください。

※日本 YWCA への募金/寄付金（賛助費を含む）は、税額控除の対象になります。

銀行振り込み

三井住友銀行　飯田橋支店　普通　1198743　　（口座名）公益財団法人日本 YWCA

ゆうちょ銀行　支店名 019　当座預金　023723　コウエキザイダンホウジンニホンワイダブリューシーエー

*銀行振り込みの場合、E メールで①募金の種類、②ご住所、③お名前を、また、オリーブの木キャンペーン募金の場合は、④お名前のローマ字もお知らせください。

郵便振替

00170-7-23723　（加入者名）**公益財団法人日本 YWCA**

*通信欄で募金の種類をお知らせください。オリーブの木キャンペーン募金は、お名前のローマ字をお知らせください。

クレジットカードで募金（かざして募金）

かざして募金

右の QR コード、または日本 YWCA ウェブサイトから「かざして募金」をクリック！

かざして募金からのご寄付は全て、**東日本大震災被災者支援事業**に使われます。

携帯からご寄付される場合・・・

★ソフトバンクの場合：寄付金は毎月の電話料金に加算されます。

★他の電話会社の場合：寄付金はクレジットカードでのお支払いになります。

毎日のクリックでもご支援ください！

日本 YWCA は、ソーシャルグッドプラットフォーム gooddo（グッドゥ）に参加しています。gooddo の日本 YWCA のページに行き、毎日【応援する】をクリックするだけで、あなたに代わって支援企業から日本 YWCA に寄付が届けられます。支援企業にあなたの Facebook で「いいね！」したときも、企業から日本 YWCA に寄付が送られるしくみになっています。

公益財団法人日本YWCA

〒101-0062　東京都千代田区神田駿河台 1-8-11　東京 YWCA 会館 302 号室

Tel: 03-3292-6121　　Fax: 03-3292-6122

Email: office-japan@ywca.or.jp　　ウェブサイト: www.ywca.or.jp